

平成 28 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」シンポジウム を開催しました。

平成 28 年 6 月 13 日（月）15：00 より、岐阜薬科大学本部第一講義室におきまして、「ライフイベントを乗り越えて—女性研究者が研究を続ける環境とは」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。

全体で 116 名（うち連携機関から 100 名、一般から 16 名）が参加していただき、そのうち 19 名の女性研究者が参加してくださいました。（参加者名簿より）

<プログラム>

- 15：00～15：05 開会挨拶 稲垣隆司 岐阜薬科大学長
- 15：05～15：50 基調講演 1  
「女性の活躍推進の加速化について」  
小林 洋子 氏  
厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 雇用均等政策課長
- 15：50～16：35 基調講演 2  
「キャリア形成における多様な視点」  
功刀 由紀子 氏  
愛知大学地域政策学部 教授・日本女性科学者の会 会長
- 16：45～17：30 パネルディスカッション  
「本音で語ろう！—私たちが目指すワークライフバランス—」  
モデレーター 永澤 秀子 岐阜薬科大学 教授  
パネリスト 安藤 正規 岐阜大学応用生物科学部 助教  
伊佐 保香 岐阜女子大学家政学部 講師  
伊野 陽子 岐阜薬科大学 講師  
小山 真紀 岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授  
秦 健敏 アピ(株)長良川リサーチセンター 主任  
丸山 広恵 アピ(株)事業戦略室 課長  
(50 音順)
- 17：30 閉会挨拶 原 英彰 岐阜薬科大学 副学長（企画・戦略担当）  
主催： 岐阜大学、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社  
共催： 日本女性科学者の会

基調講演 1 では、厚生労働省における女性活躍推進法策定の中心人物である小林洋子氏から、その意義や運用の現状等についてご講演いただきました。また、近年の女性就労状況の最新の状況についても詳しく解説いただき、我が国は、女性管理職の比率において、依然として世界から立ち後れていることがわかりました。労働人口減少の問題が深刻化しつつある今日において、女性が有用な労働資源であるにもかかわらず

ず、依然として女性の活躍の「壁」は深刻であり、これを打開するためには、日本的な長時間労働、性別役割分担意識を変えていくことが必須であると述べられました。連携機関のみならず、近隣の一般企業や自治体職員の参加もあり、国の政策立案担当者から直接話を聞くことができる非常に貴重な機会となりました。



<基調講演1 小林洋子氏>



<基調講演2 功刀由紀子氏>

基調講演2では、愛知大学教授であり、女性科学者の会会長として女性研究者の活躍の場の拡大を推進する活動を行っている功刀由紀子氏から、女性科学者のキャリア形成の多様な視点をテーマにご講演いただきました。研究者、母、大学管理職など八面六臂の活躍のかげで、様々な苦難を解決して乗り越えてきた先駆者の生々しい経験談をうかがい、特に若手女性研究者や博士課程学生にとって、目の前の厳しい現実の中でも決して諦めることなく、柔軟に対応することで、必ず路が開けるという勇気と知恵を授かったことでしょう。

本シンポジウムには、大学や企業の研究所の管理職の参加もあったことから、女性研究者のライフイベント実現のための意識啓発をはかり、各機関の女性登用のさらなる推進への足がかりとなればと期待しています。



<会場からの質問の様子>

パネルディスカッションでは、4連携機関に所属する若手研究者をパネリストにむかえ、「本音で語ろう！—私たちが目指すワークライフバランス—」をテーマに本音トークが展開されました。限られた時間でしたが、現状の問題提起とその解決に向けての率直な意見交換を行うことができました。特に、大学または企業に属する男性または女性の若手研究者によるパネルディスカッションを行ったことで、様々な雇用環境にある研究者の多様な問題や意見が語られ、家事、子育て、介護などのケア労働は、男女の別なく誰もが従事すべき基本的な労働であることが改めて認識されました。また、研究補助員制度の有用性、ICTの活用による仕事の効率化の提案など具体的な方策についても議論できました。



今回のシンポジウムでは、地方の産官学の研究者が世界に発信できる労働、研究環境を構築する上で、行政をまきこんで情報交換することは非常に有意義であり、今後も定期的にこのような取組みを実施していくことが重要であると感じました。さらに、若手研究者からの要望や意見を、管理職や行政に定期的に提案して取り上げてもらうための道筋をつくることも必要だと感じています。